

[番外] NonN3 身近な自然を楽しむ：クリスマスとレント(受難節)に咲く同種の花
Enjoy the surrounding nature: Flowers of the same family blooming in
Christmas and Lent seasons

吉野輝雄

クリスマスローズとレンテンローズは、開花時期がそれぞれ1~3月、3~4月上旬と異なるが、清楚な花を咲かせる冬期の花として愛好家が多い。私もその一人だ。近隣では今がレンテンローズの開花期だ。植物学的にはキンポウゲ科クリスマスローズ属に属し、クリスマスローズの学名はヘレボルス・ニゲル(Helleborus niger)、レンテンローズはヘレボルス・オリエンタリス(Helleborus orientalis)。

花のかたちがよく似ているので区別が難しい：Spencer(1997)によると、判別のポイントは花を包む苞葉にある。クリスマスローズでは苞葉が全縁(ギザギザである鋸歯なし)で分裂していない(1枚に見える)のに対して、レンテンローズには苞葉に鋸歯があり、分裂しているので明確に区別できる、と言う(実際には、小さな鋸歯葉のクリスマスローズが存在するので区別に迷う。さらに交配種の存在が区別を難しくしている。)以上はネット情報の要約(*1)だが、日本ではレンテンローズをクリスマスローズと呼んでいることが多い、と言われている。近隣で撮影した写真を見て楽しんでいただきたい。

ところで、2種の花の名にはキリスト教における2つの重要な暦名が使われている。すなわち、救い主イエスキリスト誕生を祝うクリスマスとイエスが十字架刑で死んだ40日間覚えて祈るレント(受難節)である。カトリック教会の暦では、レントに入る前に謝肉祭(カーニバル)を盛大に行き、生きるための食物(肉)がある事を共に感謝し、その後キリストの受難を心に刻むために40日間肉食を絶ち、質素な食事の生活をする。

なぜ40日なのか？という、40日目にイエスキリストが復活した事で、十字架が救い主の死(神の救済計画の破綻)ではなく救いの道が開かれたからである。その最初の証しは、イエスの十字架刑を見た弟子達が捕まるのを恐れて逃げていた場所に、十字架刑から3日目に復活したイエスが現れ、釘による傷跡を見せ、安心しなさいと言って、弟子達の行為を赦した出来事である。

キリスト教会では、イエスの復活は今もクリスマスと並んで中核となる教え/礼拝となっている。毎年教会では、復活祭(イースター)として大事に守られていることから分かる。今年のイースターは2024年は3月31日(日)に当たっている

(*2: [仙川キリスト教会のイースターの案内](#))。

イエスが最期の1週間、聖地エルサレムで体験した出来事、イエスの行いと言葉が新訳聖書の福音書に詳しく記されている。挿絵・聖書箇所付の受難週カレンダーをご参照下さい(*3)。

*1 https://ecological-information.com/archives/11389#google_vignette

*2 <https://www.sengawachurch.com>

*3 <http://www.sengawac.com/PassionWeekCalendar2024.jpg>